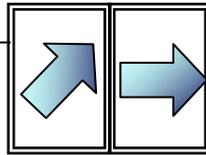


経済フローチャート

～日本経済の現状と6ヶ月見通し（4月5日時点）～

国内景況感

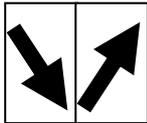
輸出は回復感に欠ける動きが続いているが、復興需要の本格化により公共投資が大幅に増加するなど内需が好調であり、景気は持ち直している。先行きは輸出の持ち直しも期待され、景気回復が続く見込み。ただし、2012年末にかけて復興需要の一巡が予想されることから、景気に加速感はないだろう。



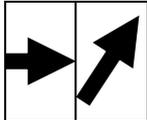
現状 6ヶ月後

(2012年4-6月期) (2012年10-12月期)

①世界経済



②輸出



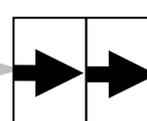
③生産



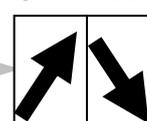
④企業収益



⑥雇用・賃金



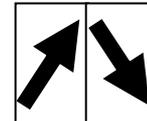
⑦個人消費



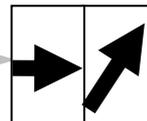
⑧住宅投資



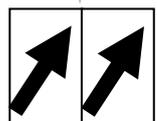
⑨公共投資



⑤設備投資



国内需要



⑩物価

(注) 矢印の方向は、各種関連統計、当社経済見通しなどを勘案して、判断している。

	コメント
①世界経済	<ul style="list-style-type: none"> ・2012 年前半の世界景気は、欧州債務問題を背景とした欧州経済の減速や新興国景気の鈍化を背景に成長ペースが抑制される公算が大きい。年後半は、新興国が金融緩和などにより再加速することを背景に、世界景気は成長ペースを小幅速めると見込まれる。ただし、原油価格上昇や欧州債務問題の波及懸念など、下振れリスクが強い。 ・米国経済は、金融緩和、低水準の在庫などに支えられるものの、ガソリン価格の上昇、減税の一部終了など財政による押し上げ効果の弱まり、輸出の増勢鈍化などにより緩やかな拡大にとどまると予想される。 ・ユーロ圏経済は、4－6 月期に景気後退局面から脱却するものの、債務問題の広がり回避のための財政規律の強化、金融市場の混乱などにより、年内は低成長が続くと見込まれる。 ・アジア経済は、これまでの金融引き締めや資金流出によって昨年の高成長からは減速するが、中国、インド、インドネシア主導で堅調さを維持すると予想される。
②輸出	米国向け輸出が好調な一方、景気減速が続く中国向けや欧州向けが不振であり、輸出は回復感に欠ける状態が続いている。先行きは、海外景気の持ち直しや円高是正を背景に回復に向かうことが予想される。
③生産	エコカー補助金効果や米国での販売好調に支えられ、自動車生産が伸びている。IT 部門の在庫調整が進展していることや復興需要の本格化も加わり、生産は緩やかに持ち直している。年末にかけて復興需要は一巡が予想されるが、一方で輸出が持ち直すため、生産の回復傾向は途切れない見込み。
④企業収益	景気回復に伴い、企業収益は持ち直している。もっとも、原油価格の高騰による下押し圧力が強いいため、加速感は強まらないと思われる。
⑤設備投資	震災関連の復興需要による押し上げにより、設備投資は緩やかに持ち直している。先行きも、景気の持ち直しによる企業マインドの好転や円高修正に伴い、徐々に回復度合いが強まる見込み。
⑥雇用・賃金	大震災発生後は雇用が減少していたが、足元では下げ止まっている。先行きは復興需要に伴って建設業を中心に増加が期待できるが、求人と求職のミスマッチが拡大しており、雇用の改善ペースは緩やかなものにとどまる見込み。
⑦個人消費	エコカー補助金の復活に伴う自動車販売の大幅増加に支えられ、個人消費は回復している。もっとも、雇用・賃金に目立った回復がみられないことに加え、ガソリン価格上昇、年少扶養控除の廃止や社会保険料率の引上げなどの負担増等の悪材料があることから、先行きの消費改善ペースは鈍化する可能性が高い。
⑧住宅投資	復興需要の顕在化が遅れており、低水準の着工が続いている。もっとも、2012 年後半には復興需要も徐々に顕在化すると見られ、住宅投資は緩やかに改善すると予想される。
⑨公共投資	復興需要が本格化しつつあり、公共投資は被災地を中心として大幅に増加している。当面、復興需要が景気を押し上げることが見込まれるが、次第に効果が一巡することから、年末にかけて増加ペースが鈍る見込み。
⑩物価	需給ギャップは依然大きいのが、原油価格上昇に伴って足元でガソリン価格が急上昇しており、C P I はプラス圏に浮上している。先行きも、原油高が石油製品価格や電気代に波及することから、物価上昇率は徐々に拡大する見込み。